

恵那市リニアまちづくり 基盤整備計画(案)

～リニアまちづくり構想の実現のための基盤整備～
令和元年度(2019)

令和元年〇〇月

恵那市

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 計画の概要	
1 計画の位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3 整備方針と取組内容・・・・・・・・	3
第2章 前期計画	
1 広域アクセスに関する要望・・・・・・・・	12
2 市街地環状道路の整備・・・・・・・・	13
3 市街地縦断道路の整備・・・・・・・・	20
4 スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備・・・・・・・・	21
5 瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備・・・	22
6 恵那西工業団地及びアクセス道路の整備・・・・・・・・	25
7 リニア軌道により分断される道路・水路等の機能回復・・・・・・・・	26
8 リニアの工事用道路の計画的利用・・・・・・・・	36
計画路線対象図（前期）・・・・・・・・	37
第3章 後期計画	
1 市街地縦断道路の整備・・・・・・・・	38
2 リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり・・・・・・・・	39
計画路線対象図（前期・後期）・・・・・・・・	42
第4章 将来計画	
1 市街地環状道路の整備・・・・・・・・	43
3 市街地縦断道路の整備・・・・・・・・	45
4 恵那駅北地区の基盤整備・・・・・・・・	46
計画路線対象図（前期・後期・将来）・・・・・・・・	47
第5章 計画の推進にあたって	
1 計画推進のための取組方法・・・・・・・・	48
リニアまちづくり基盤整備計画策定委員名簿・・・・・・・・	49
リニアまちづくり基盤整備計画策定委員会設置要綱・・・・・・・・	50

はじめに

リニア中央新幹線（以下、「リニア」という。）は、2027年（令和9年）に東京から名古屋まで開業が予定されており、中津川市西部に（仮称）リニア岐阜県駅（以下、「リニア岐阜県駅」という。）が設置されることとなっています。また、2037年（令和19年）※には大阪までの全線開業が予定されており、首都圏や関西圏を始めとする全国各地とのアクセス環境が飛躍的に向上します。これにより、大都市圏との所要時間短縮による市民の利便性の向上とともに、地域間交流の活性化によって、地域の観光や産業等への幅広い波及効果が期待されます。

こうした中、恵那市においては、地域の発展に向けた千載一遇の機会を活かし、市民・事業者・行政が一体となって、リニア開業を見据えたまちづくりを進めていく必要があります。特に中山間地を多く抱える恵那市においては、人口減少や少子高齢化に対応した地域づくりを進めていくことは喫緊の課題でもあり、リニア開業を契機とした、新たな地域の将来像を描いていく必要があります。

以上のような背景・趣旨を踏まえ、恵那市ではリニア開業を見据えたまちづくり・地域づくりの方向性と、市民・事業者・行政による取組みの指針として、平成26年に、リニアまちづくり構想を策定しました。第2次恵那市総合計画にリニアまちづくり構想を反映させることで「観光振興・まちづくり」、「産業振興・地域振興」の分野の取組みを進めています。現在、東海旅客鉄道株式会社（以下「JR東海」という。）によるリニア中央新幹線軌道計画が定まってきており、基盤整備の分野に関して具体的に事業を実施する段階にきています。

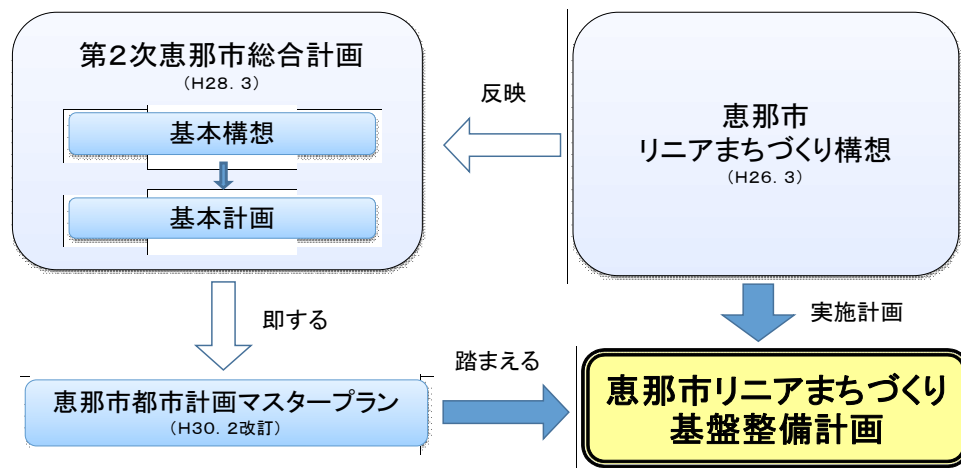
本計画は、「リニアまちづくり構想」の「目指すべき将来像」である「リニアでわくわく ちょうど えーなー 暮らしのびのび、遊びウキウキ、仕事すいすい、未来のふるさとづくり。」の実現に向け、基盤整備計画として策定するものです。リニアインパクトによる企業誘致や住宅地整備などに繋がる戦略的道路整備や、リニアにより分断される地域の影響の緩和、市街地の課題・地域の課題の解決に向けた基盤整備を推進していきます。

※ JR東海は、東京－大阪間の開業を当初は2045年としていましたが、政府の3兆円の財政投融資により最大8年間前倒しできるとしたため、東京－大阪間の開業を2037年で想定しています。

第1章 計画の概要

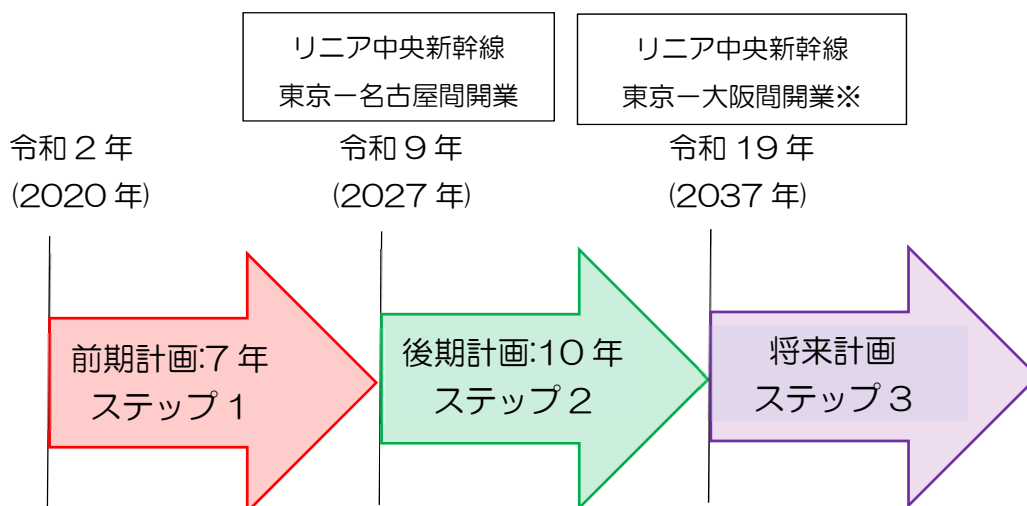
1 計画の位置づけ

本計画は、第2次恵那市総合計画などに即して策定された恵那市都市計画マスタープランで示している将来都市像を踏まえながら、リニアまちづくり構想に掲げる基盤整備施策の具体的な計画について定めるものです。



2 計画期間

本計画の期間は、前期計画（リニア 東京－名古屋間開業まで7年間）・後期計画（リニア 東京－大阪間開業※まで10年間）・将来計画（リニア 東京－大阪間開業※以降）に分け、整備計画に実施時期を設定し、事業を分類します。



※ JR東海は、東京－大阪間の開業を当初は2045年としていましたが、政府の3兆円の財政投融資により最大8年間前倒しできるとしたため、東京－大阪間の開業を2037年で想定しています。

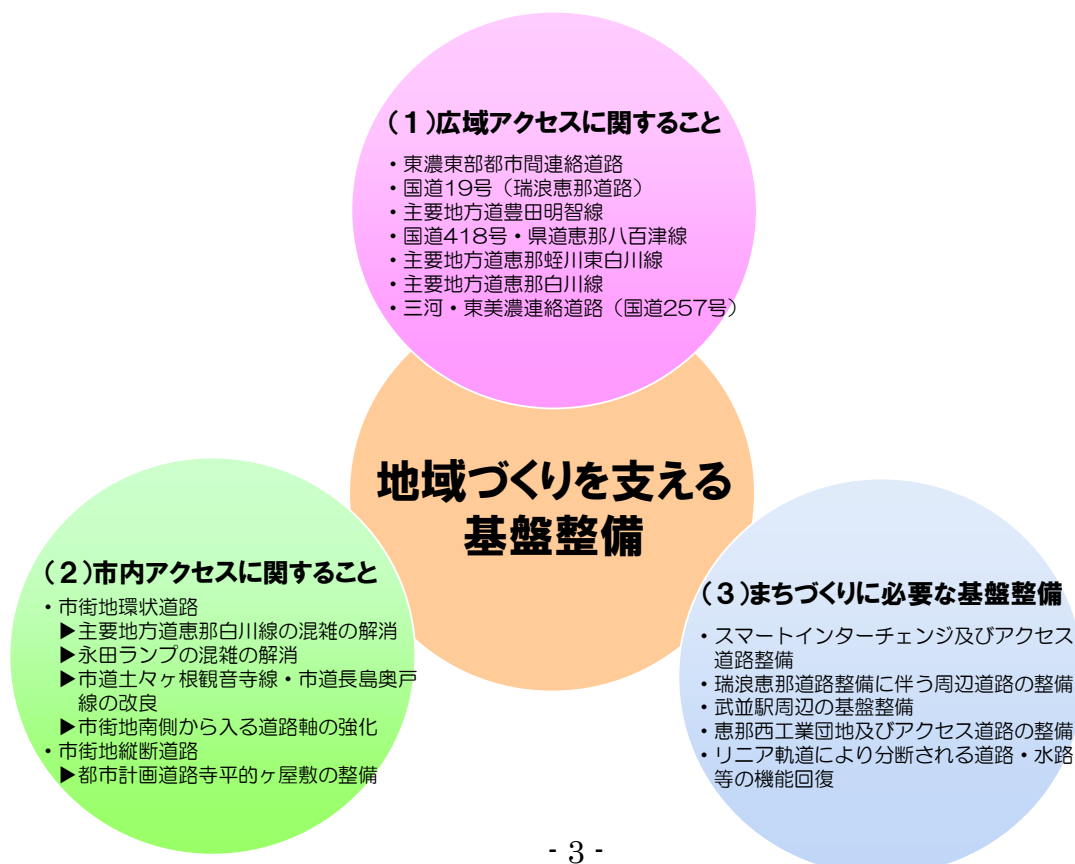
3 整備方針と取組内容

2027年の東京—名古屋間のリニア開業は、日本の中心である首都圏との距離が大幅に縮まることで、岐阜県にとって大きなインパクトをもたらすことが想定されます。なかでも、恵那市はリニア岐阜県駅が設置される中津川市と隣接していることから、そのインパクトを大きく享受できるポテンシャルを持ち合わせています。

リニアまちづくり構想では、「地域づくりを支える基盤整備の取組み」として、基盤整備方針を「広域アクセスに関すること」「市内アクセスに関すること」「まちづくりに必要な基盤整備」の3つの施策に体系づけ、地域づくりを支える基盤整備の取組みを示しています。

本計画では、この3つの施策を達成するための具体的な事業を、前期計画・後期計画・将来計画と3つの期間において効果的に実施できるよう、整備効果の高い事業から順番に体系付けました。前期計画では、広域アクセスに関する要望、市街地環状道路の整備、市街地縦断道路の整備、スマートインターチェンジ及びアクセス道路整備、瑞浪恵那道路整備に伴う周辺道路整備と武並駅周辺の基盤整備、恵那西工業団地及びアクセス道路の整備、リニア軌道による分断される道路・水路の機能回復、リニアの工事用道路の計画的利用、後期計画では、市街地縦断道の整備、リニア及び瑞浪恵那道路沿線地域のまちづくり、将来計画では、市街地環状道路の整備、市街地縦断道路の整備、恵那駅北地区の基盤整備を進めます。

リニアインパクトを着実にとらえ、市の活性化へと結びつけ、観光や産業の振興によるまちづくりを支えるための基盤整備の具体的な取組みを以下に示します。



(1) 広域アクセスに関すること

リニアの中間駅であるリニア岐阜県駅との交通アクセスについては、在来線の中央本線に加え、車が主な交通手段であるこの地域においては、道路が重要な役割を果たします。広域的な交通基盤においては、東西方向に加え南北方向の交通基盤を整え、この地域に人やモノが集まる交通の結節点となるよう整備することが望ましいと考えます。

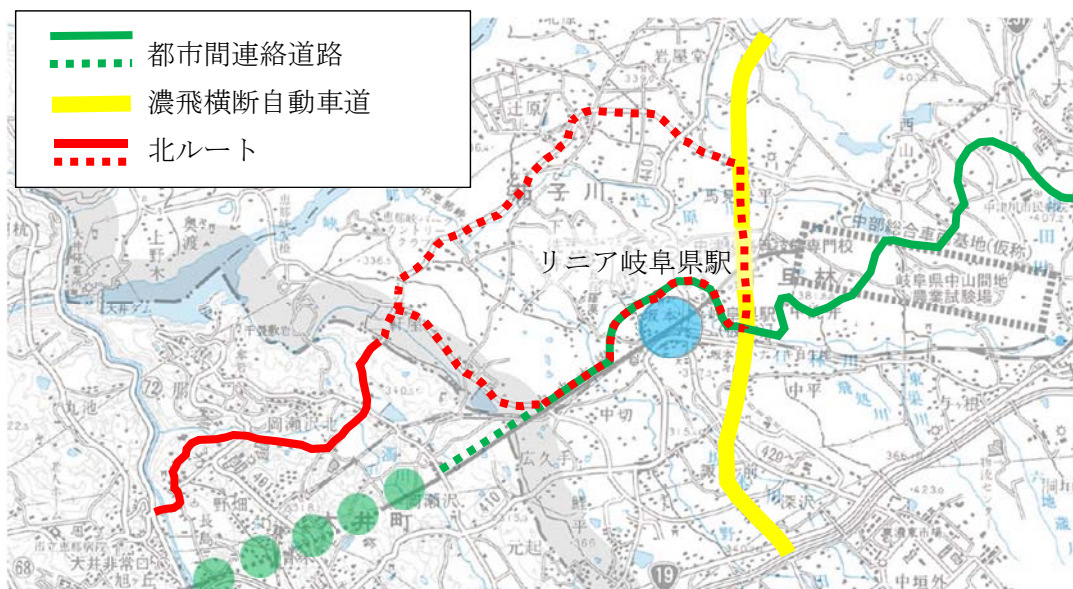
広域アクセスの整備により、周辺地域（市）との連携（結びつき）を強化し、ひと（観光）、もの（産業）、かね（商業）を外部から呼び込みます。特に産業の集積している愛知県（豊田市）との結びつきを強化するために、南北の幹線ルートの強化及び多重化を図ります。東西においては、国道19号瑞浪恵那道路の整備により、物流の大動脈をさらに強化し、産業振興・観光振興に波及させていきます。

そこで、以下に掲げる広域的な道路について、整備促進に向け取り組みます。

○東濃東部都市間連絡道路

中津川市街地から中津川市に設置されるリニア岐阜県駅を經由し、恵那市へ至る東濃東部都市間連絡道路の構想の実現に向け、岐阜県及び中津川市と協議を進め、深度化を図ります。この都市間連絡道路が整備されることにより、恵那市からリニア岐阜県駅への移動時間が短縮されることが見込まれます。また、県道網再編により将来の県道苗木恵那線となる可能性もあり、未整備区間の多い現在の県道苗木恵那線の交通量を減らすことも予想されます。

開業後、当面の間は東濃東部都市間連絡道路の代替道路として、濃飛横断自動車道、中津川市道、恵那市道土々ヶ根観音寺線・長島奥戸線（以下「北ルート」という）を想定し、恵那市内の市道の改良及び沿道の修景を推進し、沿線地域の賑わいを創出します。



○国道 19 号（瑞浪恵那道路）

国道 19 号は、中央自動車道とともに東濃地方を東西に結ぶ最も基幹的な道路となっています。

現在、渋滞、事故等の交通課題の解消や、リニア中央新幹線の開業時の地域貢献に寄与するため、国道 19 号瑞浪恵那道路の整備が進んでいます。瑞浪恵那道路が早期に整備されるよう、国に求めています。

市内には瑞浪恵那道路整備後も 2 車線の区間があるため、全線 4 車線となるよう調整を行います。

また、国道 19 号と県道 66 号線の交差点となる永田ランプの混雑解消のため、信号の設置や右折帯の設置についても働きかけを行います。

○主要地方道豊田明智線

産業の一大集積地である豊田市との結びつきを強化する南の玄関口と言える道路であり、本路線の整備は当市にとってとても重要です。リニア開業後は、豊田市近辺から車を利用し、駅からリニアに乗車する際には、リニア岐阜県駅が利用されることが想定されます。これらの理由より、主要地方道豊田明智線の整備促進に努めます。

○国道 418 号・一般県道恵那八百津線

現在、八百津方面との連携強化につながる国道 418 号の整備が国土交通省により進められています。この整備により、八百津方面から恵那市街地やリニア岐阜県駅への移動が格段にスピードアップします。しかし、県道恵那八百津線には狭隘な箇所がまだ複数あるため、引き続き国や県に対し、調整を図ります。

○主要地方道恵那蛭川東白川線

主要地方道恵那蛭川東白川線は、下呂・高山方面とアクセスする北の玄関口といえる道路であり、地域間の物流や交流を支える重要な道路としての役割を担っています。2015 年には東雲大橋が完成し利便性が向上しましたが、未整備区間もあるため、今後も整備促進について働きかけます。

また、この路線は市街地環状道路及び北ルートとして設定している市道長島奥戸線や都市計画道路寺平的ヶ屋敷線と接続しており、整備効果の高い道路となっています。旭ヶ丘交差点から長島西交差点までの区間については、特に早期の整備について調整を図ります。

○国道 363 号（花白バイパス）

国道 363 号は明智町、山岡町、岩村町を通る、恵那市を東西に抜ける幹線道路であり、緊急輸送道路に指定されている重要な路線です。この路線のうち、山岡町馬場山田地内の幅員狭小区間及び線形不良区間について改良が進められています。地域住民や観光客が安全で円滑な通行ができるよう、早期の整備を求めています。

○主要地方道恵那白川線

主要地方道恵那白川線は、白川町から恵那市中野方町、笠置町を經由して市街地に至る幹線道路であり、沿線地域の生活・産業・経済を支える重要な道路です。市街地の中心を東西に結ぶ基幹的な道路でもあり、歩道の設置や道路改良を求めています。特に市街地にある佐渡橋は重量規制がかかっているため、橋の付け替えや補強について働きかけます。

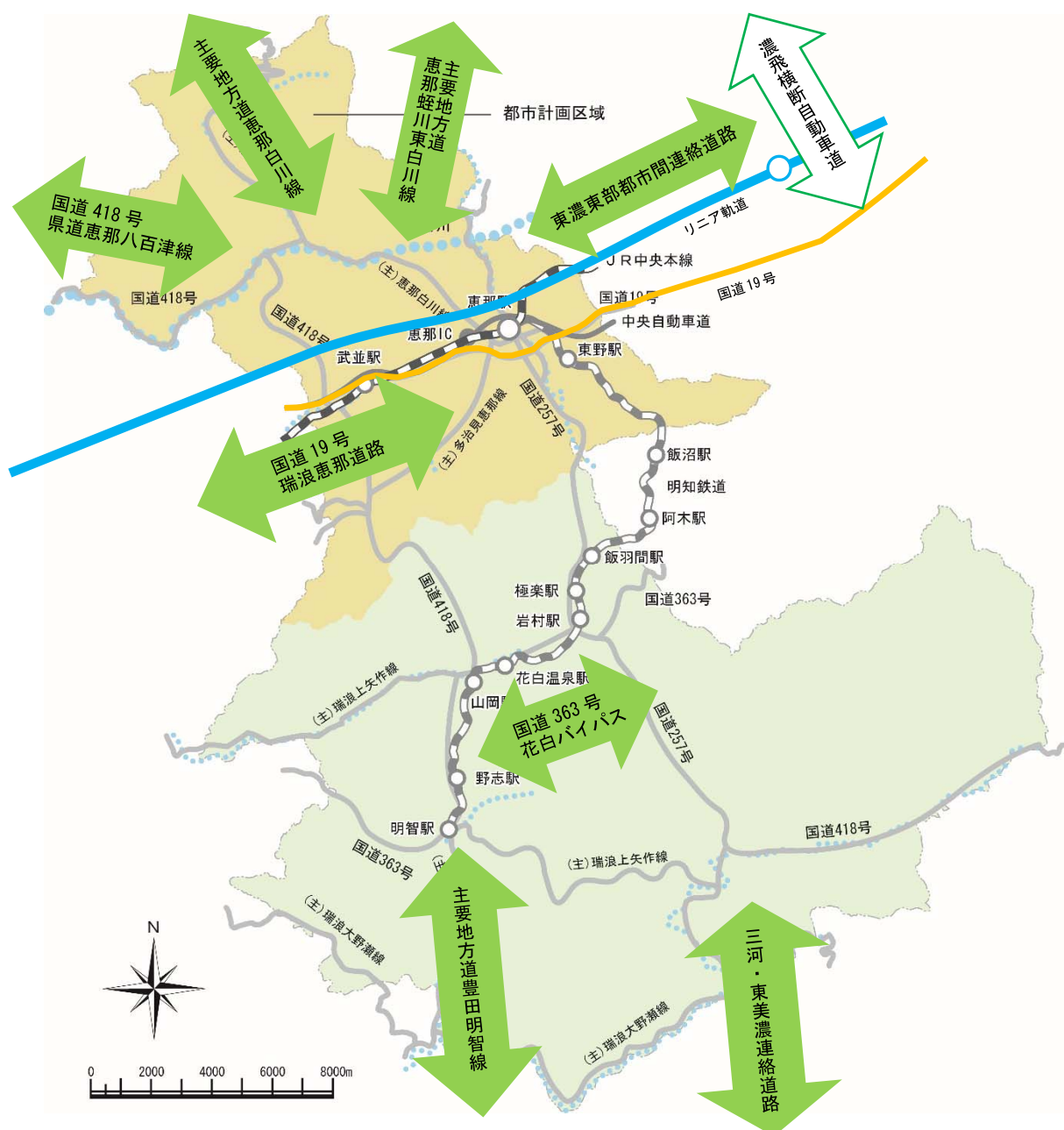
○三河・東美濃連絡道路

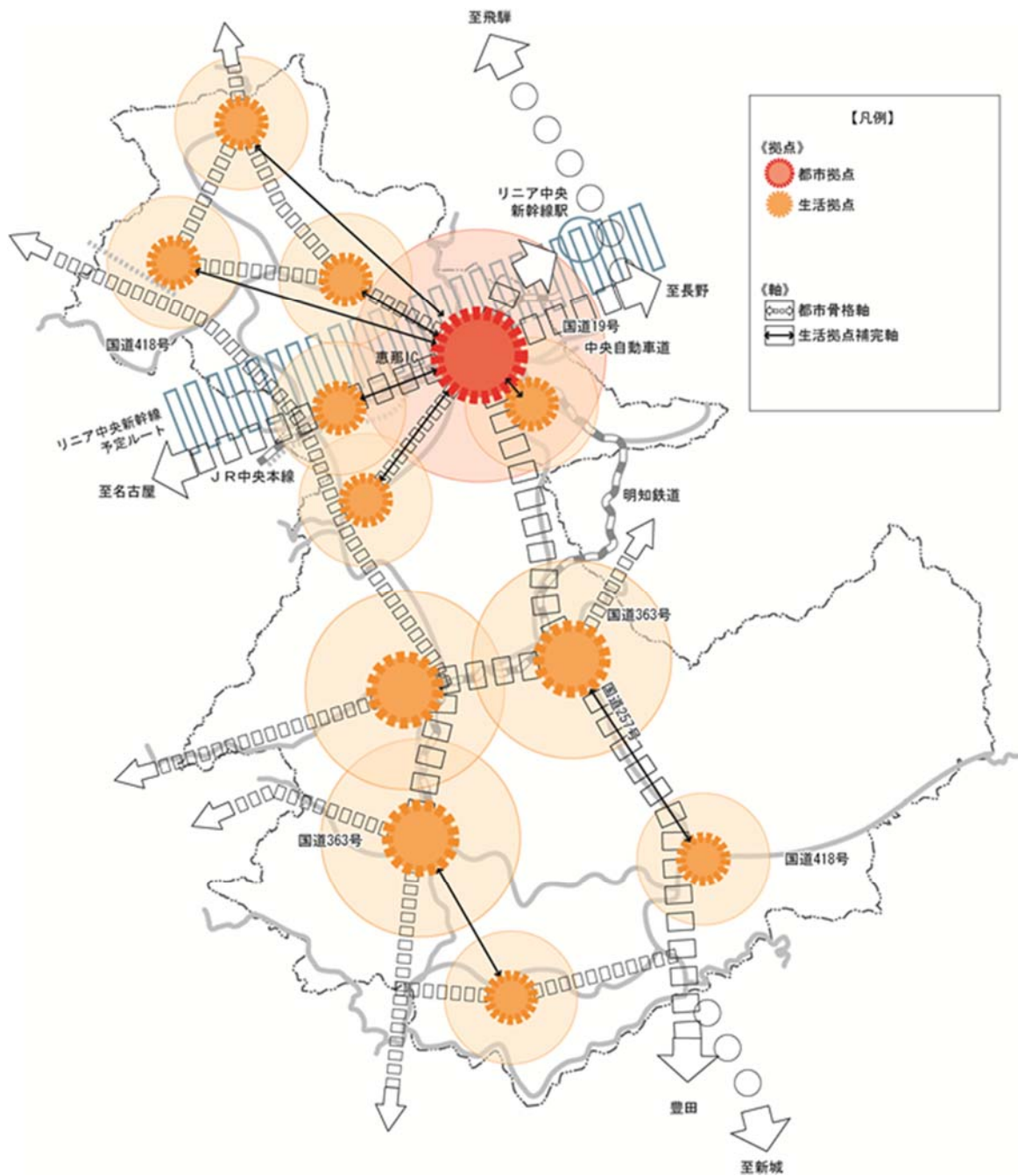
平成28年2月に新東名高速道路が開通され、南北軸となる三河・東美濃連絡道路を整備する意義、必要性はとて大きなものとなりました。奥三河地域と東美濃を結ぶ三河・東美濃連絡道路が整備されると、奥三河とのアクセスのみならず、静岡・東京方面とのアクセスも飛躍的に向上することとなります。

また、リニア岐阜県駅より岩村町、明智町などの観光地に向かうバスがスムーズに通行するためにも、国道257号を軸とする三河・東美濃連絡道路の整備は不可欠です。今後も三河・東美濃連絡道路の整備促進について働きかけを行います。

これら広域的な交通アクセスについては、中津川市をはじめ近隣の市町や国、岐阜県と十分な協議を行い、連携しながら整備を進めます。

また、これらの広域的な交通アクセスを踏まえ、「市内アクセスに関すること」「まちづくりに必要な基盤整備」に取り組んでいきます。



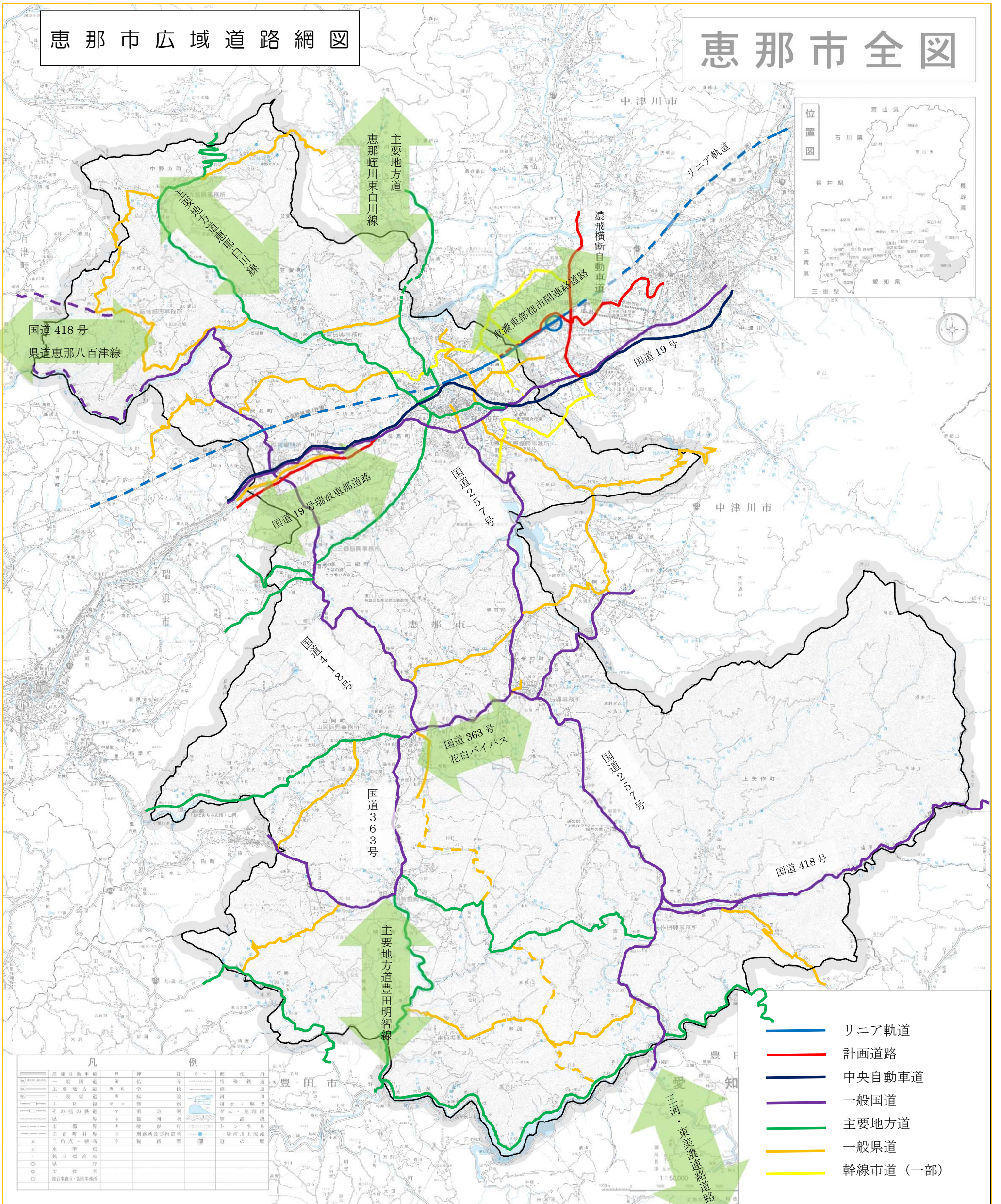


将来都市構造図（出展：恵那市都市計画マスタープラン）

<p>対象となる事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広域アクセスの整備促進を図る 	<p>P12</p>
---	------------

恵那市広域道路網図

恵那市全図



凡		例	
高速自動車道	特 社	特 社	特 社
一般国道	特 社	特 社	特 社
主要地方道	特 社	特 社	特 社
一般県道	特 社	特 社	特 社
その他の県道	特 社	特 社	特 社
市道	特 社	特 社	特 社
町道	特 社	特 社	特 社
村道	特 社	特 社	特 社
三角点・標高	特 社	特 社	特 社
水準点	特 社	特 社	特 社
橋立標高	特 社	特 社	特 社
電 柱	特 社	特 社	特 社
電 線	特 社	特 社	特 社
組合事務所・出張事務所	特 社	特 社	特 社

- リニア軌道
- 計画道路
- 中央自動車道
- 一般国道
- 主要地方道
- 一般県道
- 幹線市道（一部）